

二〇一八年度 桐朋女子中学校入学試験 (A入試)
筆記試験 (国語)

受験番号

氏名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は１ページから15ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてはかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四十五分です。

一、次の①～⑤の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。送りが必要な場合は送りがなもつけなさい。また⑥～⑩の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------|---|----------------|
| ① | シヨメイ運動に参加する | ② | 社会のカンシュウにしたがう |
| ③ | ホンリョウを發揮する | ④ | 豊かな生活をイトナム |
| ⑤ | しはらいのウチワケ | ⑥ | 薬のコウカがあらわれる |
| ⑦ | 単調な練習にアキル | ⑧ | 高山植物がグンセイする |
| ⑨ | ふるさとからタヨリが届く | ⑩ | セイジツで思いやりがある人 |
| ⑪ | 建築用のシザイを確保する | ⑫ | シシャゴニユウして計算する |
| ⑬ | 国と国とのサカイメ | ⑭ | ピアノの演奏がゼッサンされる |
| ⑮ | ケイロウの日を祝う | ⑯ | この池にはナマズが居る |
| ⑰ | 真面目な性格の人 | ⑱ | みんなでいろりを囲む |
| ⑲ | 横暴なやり方 | ⑳ | 類まれな才能の持ち主 |

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問いに答える場合、「、」や「^①」等も一字と数えます。問題文には、原文の一部を省略したところがあります。

① 私たちのまわりには、いろいろな動物が住んでいます。こういう動物たちも「ことば」を持っていてるのでしょうか。

みなさんは、アリを観察したことがありますか。甘いケーキのかけらなどを落としておく、しばらくするとたくさんのアリのまわりにおらがって、せっせとそれを巣の方向へ運んで行くのが見られます。巣へ戻るとちゅうのアリが、巣からやってきたアリと出会うと、ニひきはしばらく立ち止まってなにかを話しているように見えます。「A」道を教えてやっているようです。アリも「ことば」を持っているのでしょうか。

動物学者が調べたところでは、つぎのようなことがわかっています。まず最初に、一匹きのアリが甘いものが落ちていっているのを発見します。そうすると、そのアリは巣の方へ戻りはじめめるのですが、そのときアリの脚の先から、ある特別なにおいのあるものがでてきます。それでアリの巣まで戻ったときには、巣と甘いものとの間には、一本の「においの道」ができてあがります。巣にいたアリたちは、この「においの道」をたどって、甘いもののあるところまで行くというのです。人間のことばが耳に聞こえる音や、眼に見える形によって成り立っているのとはちがって、アリのことばは、においによっているというわけです。

② においは、私たちの身近な犬や猫にとっても、大切なことばです。町を歩いていると、犬や猫が電柱や壁におしっこをしているのを見かけることがあります。私たちは、「おぎょうぎが悪いなあ」と思うでしょうが、「B」、あれは、ここは自分が通りましたよ、とか、

このあたりは自分の住んでいるところですよ、ということを知らせるための大切な印だそうです。私たちは、ふつう決まった家に住み、ふだんはいつものかよいなれた道を通して生活しています。犬や猫たちも、その点では私たちとそんなに違ちがいませぬ。(もしかしたら、私たちのほうが、犬や猫と似ているのかもしれない。)

③ 犬や猫は、しっぽの動きでも、いろいろなことを伝えますね。ペットとして犬や猫を飼ったことのある人なら、しっぽのさかっこうで、犬が喜んでいたりとか、猫が怒おこっているとか分かるはずです。面白おもしろいのは、犬はうれしいときにしっぽを振りふますが、猫がしっぽをピンと立てて先をピクピク動かすのは怒っているときです。動かし方はちよつと似ていますが、意味は反対になってしまいました。犬と猫は昔からあまり仲がよくないものと言われ、どうして仲が悪くなったかという「なぜなぜ話」もあるくらいです。「C」、幼いときからいっしょに育てると、同じ家で仲よく暮らすこともあるそうです。そして、そんなときには、おたがいに相手の身振りの意味を理解するようになるといいます。③ 犬や猫でも、「外国語」を学べるわけです。

④ 動物のことばの中で、ミツバチの「ことば」はいちばんよく研究されたもののひとつです。蜜みつのある花を見つけたミツバチは、すぐ巣へ飛んで帰ります。そして巣の入口のところまで、いそがしくまっすぐ走ってみたり、クルッと回転してみたり、決まった動作をしてみせます。これを「ミツバチのダンス」と呼んでいる人もいますが、このダンスには二種類あるということが知られています。ひとつは、蜜がわりあい近くにあるとき、もうひとつは、もっと遠いところにあるとき、そしてこのあとの場合には、そのミツバチの走ってみせる方向とその

ときの太陽の位置とから、ほかのミツバチたちは甘いもののある方角までがわかるということです。たとえていうならば、ミツバチはふたつの単語を持っていて、それを使い分けているわけです。ミツバチのことは、人間の身振りに似ています。

(中略)

5 私たちは、動物たちのなかにも「ことば」をもっているものがいて、生きていくために必要なことを、おたがいに伝えあっているらしいということを見ました。でも、このような動物たちの「ことば」は、私たち人間の「ことば」と同じものでしょうか。

5 動物たちの「ことば」と私たち人間の「ことば」との間には、たいせつな違う点がいくつかあります。たとえば、アリやミツバチは、どのようにして「ことば」を身につけるのでしょうか。お母さんのアリが子どものアリに向かって、えさを見つけたときにはこうするのですよ、と教えているというのは、考えてみただけでもほんとうにほほえましい光景です。でも、じっさいには、アリのお母さんはそんなことをする必要はないのです。アリであれば、えさを見つけると、足の先からおいのするものがしぜんに出てくるというふうに、生まれつき仕込まれているのです。ミツバチの場合も、お母さんが子どもの手足をとって、ダンスの仕方を教えてやるといいうわけではありません。

人間の「ことば」は、こういうふうにはいきません。私たちが日ごろ使っている日本語ですと、まるで生まれつき身につけていたように思えるかもしれませんが、たとえば、どういう場合に「アニ」といって「オトウト」とはいわないのか、などということは、みんな私たち自身が他の人から教えられたり、あるいは、他の人が使っているのを見たり聞いたりして

学び知ったのか、どちらかです。ひとりでに使えるようになったというわけではありません。このことは、外国語を身につける場合を考えてみれば、もっとはっきりするでしょう。

6 動物たちは「ことば」の勉強をしなくてすむからいいな、などと思っただけではありません。動物たちは、たしかに人間のようになり、努力して「ことば」を学ばなければならないというようなことはありません。しかし、その代わりに、動物たちは、いつも、そしていつまでもたっても、同じことしか伝えることができないのです。

動物の「ことば」はいま、ここにあることがらを伝えることはできるでしょうが、「いま」と「ここ」を越えたもっと広い世界のことからを伝えることはできないでしょう。たとえば、アリたちは、アリの「ことば」で、三日前に見つけたケーキがとても甘かったこと、明日はきっとおいしいものを見つかるぞ、などといった気持ちを伝えることができるでしょうか。とてもできないことです。

7 動物の「ことば」の仕組みは、生まれつき身に備わっています。その代わりに、動物たちには、もともと生まれつき定められたことしか、表したり、伝えたりすることができないのです。⑥ 動物の「ことば」は、動物たちをせまい世界の中に閉じこめています。

私たち人間の世界は、このように閉じたものではありません。人間の「ことば」は、「こと」 「いま」のことからをはるかに越えて、過去のこと、未来のこと、そしてじっさいにはありえない想像上のことであっても、表し、伝えることができます。人間は「ことば」を学ばなければならぬ代わりに、学ばば学ばほど、新しい言いまわしを身につければつけるほど、世界が広がっていきます。そして、さらにすすんで、もし新しい外国語を身につ

けたとしたら、私たちの世界はどれほど広くなることでしょうか。私たちのほうでその気になれば、人間の「ことば」は私たちをいくらかでも広い世界へと連れていってくれます。

(池上嘉彦『ふしぎなことば ことばのふしぎ』筑摩書房)

問い一、 「A」Cに入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところでも イ でも ウ まるで エ じつは オ さて

問い二、 —— 線部①「私たちのまわりには、いろいろな動物が住んでいます。こういう動物たちも『ことば』を持っているのでしょうか。」とありますが、本文中で筆者はいろいろな動物にも『ことば』があると考えています。アリについて、人間の『ことば』にあたるものは何であると述べていますか。[1]段落中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問い三、 —— 線部②「犬や猫にとっても、大切なことばです」とありますが、犬や猫の『ことば』の例として本文中で具体的にあげられているものを二つ、それぞれ五字程度でぬき出して答えなさい。

問い四、 —— 線部③「犬や猫でも、『外国語』を学べる」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 犬や猫でも、幼いときからいっしょに育つと仲よくなり、相手と同じ動作をまねするようになるということ。

イ 犬や猫でも、幼いときからいっしょに同じ家で育つと、人間のことばの意図を感じ
るようになるということ。

ウ 犬や猫でも、幼いときからいっしょに育つと仲よくなり、相手の動作の意味が分か
るようになるということ。

エ 犬や猫でも、幼いときからいっしょに同じ家で育つと、おたがいの気持ちを尊重し
あえるようになるということ。

問い五、——線部④「ミツバチはふたつの単語を持っていて、それを使い分けている」と
ありますが、これはどういうことを述べていますか。「ふたつの単語」というたとえ
の内容を明らかにしながら解答らんに合うように四十字以内で説明しなさい。

問い六、——線部⑤「動物たちの『ことば』と私たち人間の『ことば』との間には、たい
せつな違う点がいくつかあります」とありますが、5段落中で述べられているちがい
について、解答らんに合うように1は十五字以内、2は二十字以内でそ
れぞれ答えなさい。

問い七、——線部⑥「動物の『ことば』は、動物たちをせまい世界の中に閉じこめていま
す」とありますが、それはなぜですか。その理由にあたる部分を6段落中から解答ら
んに合うように三十字以内で探し、はじめと終わりのそれぞれ五字をぬき出して答え
なさい。

問い八、7段落中で述べられている、人間たちの「ことば」が動物たちの「ことば」とはち
がう点について、三点あげなさい。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問いに答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。問題文には、原文の一部を省略したところがあります。

ブザーが鳴って、扉が開いて、わたしはバスから降りた。今日は午後から運動会のリハーサルで、段どりだけをやった。先生に言われたとおり、すなおに動く低学年、リハーサルなんてめんどー、と大人な顔してる六年生、どっちでもないわたしたち五年生は、今からテンションあげちゃって、採点ボードを倒して怒られた。まだ学校に残ってやらなくてもいい練習をしている人もいる。けど、わたしはママの顔が浮かんだので帰ってきた。

バス通りから、わたしの家がある道に入り、去年、古い家を壊してできた空地の前で立ち止まった。夏は「A」句うほど茂っていた雑草も、からからになって頭を下げている。

「B」してる猫じゃらしは、わたしみたいだ。そこだけ家がないから、見上げれば

「C」空が見える。明日は晴れるかな？ うすい水色で、下のほうは少しオレンジっぽくなっている空を見つめていると、胸がつまるような感じになった。気のせいと思うために、わたしはつぶやいた。

「明日は、運動会か」

明日は、遠足。明日は、合唱コンクール。明日は、臨海学校。明日は、クリスマス会。明日は日曜で、洋服を買ってもらって、その後にレストランでお食事をする日。

② 明日は……という日の夜になると、そいつは、やってくる。襲ってくるのは、たいい真夜中。きゅーっと胸が苦しくなっていて、がまんできなくて、せきをして起きあがると、ゼエーッ、と胸が鳴る。それは、なっちゃったのサイン。

やっぱり、ね……。

じゃないかって思った。でも、すぐには信じたくないからその音がしないように、鼻で息をしてみる。ゼーの代わりに、ヒュー、ピーと、まぬけな笛みたいな音が気管支から聞こえてくる。その音も止めたいから、息をしない、なんていうこともしてみるのが、命は止まっても、それで発作が止まるなんてことはない。息を止めても、止めなくても同じくらい苦しくなってきて、吸えばヒュー、吐けばゼーッ、とわたしを楽器にして音色を奏（かな）でることをやめない。はい、わかりました。こうなっちゃったら、みとめるしかない。お金を払（はら）って、去年ホトケ様になったおじいちゃんに祈（いの）っても、ペンゴシたてても、治まるものじゃないとわかってる。

③ なっちゃったら明日は……ない。

校庭のトラックをバトンを持って走っているわたし、山の頂上でみんなとお弁当を食べているわたし、洋服を試着してるわたし、チョコパフェを食べているわたしは……はい、消えた。ベットのの上にいるのが、明日のわたしだ。私にとっては、よくあること。幼稚園（ようちえん）のころから、眠（ねむ）れない夜の記憶（きおく）がある。おかげさまで、どうにか五年生までは死なないできたけれど。実は、わたしは今まで運動会ってものには一度も出たことがないのだ。

だから「がっかり」するのにはなれてる。

（中略）

楽しい予定があっても、ふだんからあまり期待しないようにしている。だから、いつも元④
気な子が運動会に出れなかったときの「がっかり」ほど、がっかりはしていない。ペンチの

選手に出番がなかった、ぐらいの「がっかり」かな。基本出れないとわかってるけど、それでも少しは期待しているから、がっかりしないわけではない。でも、それにもなれてるってこと。

(中略)

……窓の外が白っぽくなってきた。でもわたしの胸は、ヒュー、ゼー、と鳴りやまない。空が明るいから明日は、いや今日は、晴れるだろう。ヒュー……快晴でも……ゼー……大雨でも……ヒュー……わたしには関係ないけれど……。

(中略)

「なにか、食べられる？」

もう一度、首をよこにふった。昼間の方が呼吸は落ち着くので、食べられなくもないけれど、お弁当になるはずだったおかずを見たら、またいろいろと考えてしまうから。ヨーグルトだけ食べたいと言うと、ママは部屋を出て行った。わたしは枕元まくらもとに重ねて置いてある本に手をのばした。^⑤『ドリトル先生』に『ムーミン』そして『パディントン』。こういう本を読んでいる子は、クラスにはあまりいない。五年生にしては幼稚だし、ふつうの子はアイドルが出てる雑誌とかを読んでする。頭がよくて本が好きなのは、もっと大人が読むようなミステリーや、文字がいっぱいの文庫をかたっぱしから読んでる。そのどちらでもないのが、わたしだ。ママとパパも、ベッドで寝ねているわたしに本やマンガを買ってきてくれるけれど、けっこうハズしてくれる。こちらもこだわりがあるので、二、三ページ読んで気に入らなければ、ごめんなさい、と机の下につっこむ。でも気に入った本は、何度も何度も、読むのが好き。

今読んでる三冊も、表紙がすりきれちゃって『ジェインのもうふ』状態。この歳でどうかと思っけど。

「本、読むの？ 疲れないようにね」

刻んだバナナ入りのヨーグルトを持ってきたママが心配する。わたしはドリトル先生の本をおぼん代わりにして、ガラスの器うつわをのせた。病気のつらいところは、眠れないのにベッドに寝てなきゃいけないことだ。何もしないで寝てるのって、つらい。かといって、ママが言うように、テレビを観てもマンガを読んでも、ふだんより疲れちゃう。

「うん、だいじょうぶ」

でも、くり返し読んでいるお話の中には、すぐに飛び込めるから、らくだ。その本の世界のことは、自分のお家のように、すみずみまで、よくわかっている。ほとんど暗記しているような文を読むのは楽しいし、その間は、今のわたしを忘れていられる。ここだけの話、学校や自分の家より、わたしはよく知ってる本の中が好きかもしれない。とくに病気のときは……。物語の中にも、つらいことや、イヤなことは出てくるけど、終わりがわかっているから、安心して読める。どっちかという主人公も、人間でない方がいい。人間の場合は『秘密の花園』とか『みどりのゆび』みたいに、ふつうじゃない子が出てくるお話がいい。

(中略)

「…………ごめんね」

「なにが？」

ママが息をひとつ吐いて言った。

⑥ 「元気に、産んであげられなくて」

「は？」

わたしは、わざと意味がわからないというような声で返した。

「べつに、ママのせいじゃ、ないし」

「ママは、いろんなことが下手だから。あなたのことも上手に産めなかったのかもしれない」
「お料理も、お掃除そうじも、上手じゃん」

「そんなことないわよ。ママすごくテキトーなもの」

「じゃ、わたしも、テキトーに産んだ？」

冗談じょうだんなのに、ママは黙だまってしまった。でも、首をよこにふった。

「それは、ない。お腹にいるときも、いろいろ気をつけたんだけど。まあ……でも何かが間ま違ちがってたのかも」

間違まちがってた……。今度はわたしが黙だまった。ママは続けた。

「つらい思いさせて、本当にゴメンね。でも、きっとよくなるから」

わたしは、ただ小さくうなずいた。

「そのためにも、少しでも調子が悪わるかったら、隠かくさないでちゃんとママに言いなさいね」

あ、始はじまった。

「大事なイベントの日に大きな発作が起きちゃうのはさ、その前からがんばりすぎてるからなのよ。用心しておけば悪くしないのに。本番目指してずっと無理してるから、当日に具合が悪くなっちゃうんだと思う」

遠まわしに、お説教だ。

「悪くなるよときの感じとか、あるでしょ。もっと普段ふだんから注意して」
ママはため息をついた。

「がんばるのは、悪いことじゃないけどね」

ママが一人でどんだん話すので、わたしは返した。

「べつに、がんばってない。ふつーに、やってるだけだよ」

「みんなとは同じじゃないんだから。ふつーだって、がんばってることになるの」

「ママみたいにテキトーにできないだけ」

ママは黙って腰掛こしかけていたベッドから立ち上がって、ずれている布団ふとんを真まっ直すぐになおすと、聞いた。

「他にになにか食べられない？」

あとからにする、と首をよこにふって、高く積んである枕によりかかった。なんでだか枕が高い方が、呼吸が苦しくならないのだ。ママは下にいるから呼んでね、と元気なく言っ出ていった。部屋に一人になって、わたしは思った。

ママがわたしをいじめたのか？ わたしがママをいじめたのか？ どっちだろう？

⑦ 答えは両方だ。そして、ママはわたしを、わたしはママを、かわいそう、って思っている。

こういうのを「傷つけあう」って言うんだって、テレビのドラマでやっていた。わたしはママを真ま似ねて、鼻から吐くため息をついた。同時に、ゼエーッと胸が鳴る。聞かないふりして、手に持っているドリトル先生の本を開けば、そこは遠いイギリスの、本当にあるかもわから

ない田舎町^{いなかまち}。おしゃべりな動物たちと先生が楽しく暮らしている家に、病気^⑧のわたしは、もういなかった。

(中島たい子『がっかり行進曲』ちくまプリマー新書)

*『ジェインのもうふ』——毛布が大好きな主人公ジェインの成長をえがいた絵本。

問い一、「 」AとCに入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ひよろりと イ ぽっかりと ウ ふわりと エ もわっと オ すっきりと

問い二、——線部①「そこ」とはどこをさしますか。本文中からぬき出して答えなさい。

問い三、——線部②「明日は……という日」とは、どのような日のことをさしていますか。十五字以内で答えなさい。

問い四、——線部③「なっちゃったら明日は……ない」とありますが、これはどういうことを意味していますか。簡潔に説明しなさい。

問い五、——線部④「いつも元気な子が運動会に出れなかったときの『がっかり』ほど、がっかりはしていない」とありますが、どうしてそれほど「がっかり」はしていないのですか。その理由を解答らんに合うように本文中から十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問い六、——線部⑤「『ドリトル先生』に『ムーミン』そして『パディントン』」とありますが、「わたし」にとってこれらの本はどのような本といえますか。解答らんに合うように二十五字以内で答えなさい。

問い七、——線部⑥「『は？』わたしは、わざと意味がわからないというような声で返した。」とありますが、「わたし」のどのような心情があらわれていますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ママの言葉に傷ついてこれ以上話をしたくないという気持ち。

イ ママが思いがけないことを言い出して認めたくないという気持ち。

ウ ママからの優しい言葉にどう答えていいかわからないという気持ち。

エ ママに言われたことを素直に受け入れたくないという気持ち。

問い八、——線部⑦「ママはわたしを、わたしはママを、かわいそう、って思っている」とありますが、それぞれどのようなことがかわいそうだと思っているのですか。それぞれ簡潔に答えなさい。

問い九、——線部⑧「病気のわたしは、もういなかかった」とありますが、どういうことを意味していますか。簡潔に答えなさい。

